

## パンフレット一体型の大腸癌切除術クリニカルパスの作成

西病棟 8 階 ○寺川奈菜 国枝美代子 井田奈緒子 坂尾雅子

key word:大腸癌 クリニカルパス 患者ニーズ  
パンフレット

用語の定義

はじめに

大腸癌患者は近年急激に患者数が増加している。それに伴い、大腸癌切除術を受ける患者は増加の一途をたどっている。手術を受ける患者の抱える不安は大きいものであり、すべての患者に効率よく安全で質の高い医療を提供するために、さらにチーム医療を充実させていく必要性が高まっている。

当科において医師、看護師、薬剤師、栄養士を含む、大腸グループのメンバーは、チーム医療の推進とともに平成 17 年からクリニカルパス(以下 CP)の作成と運用に取り組んできた。CP は多職種を結ぶ共通言語となるため、コミュニケーションがとりやすく、チーム医療の推進にはかかせないツールである。CP を導入以後約 6 ヶ月毎に改訂を行ってきた。それに伴い、患者用 CP も患者に知っておいてほしい事、もしくは知りたいであろう事を医療者の視点から作成してきた。

しかし、患者の不安を最小限にし、患者のニーズに沿った患者用 CP にするためには、患者が知りたい内容や改善してほしいことをふまえることが必要だと考えられた。そこで、平成 19 年 7 月に、高木らが「大腸癌切除術 CP に対する患者満足度調査と看護師の意識調査を実施した。そのアンケート調査では、患者から CP の活用は有用であり、ほぼ満足しているという結果が得られた。また、患者の要望として、文字の大きさをより大きくしてほしい、箇条書きにしたほうがわかりやすいという意見があった。

多くの媒体や様々な情報が行き交う現代において、先が見えない不安を抱き、自分がどのような経過をたどるのか疑問を抱えている患者は少なくない。また、在院日数の短縮により、手術前の入院期間が短く、手術が決定した患者に対する精神的なケアが必要であると考えられた。このことから、患者の意見や要望を取り入れ、入院前の外来の時点から不安が最小限となるような新たな CP の作成が必要と考え、本研究に取り組んだ。

クリニカルパス(CP):「ある疾患の診療を行うにあたって、その施設において、その疾患のほとんどの患者が受け取る診療行為とたどるであろう臨床経過について、医療スタッフ間で合意を形成して診療計画を立て、その計画に従って診療行為を行い、そしてその結果を評価するシステム」<sup>1)</sup>

### I. 目的

大腸癌切除術を受ける患者が入院前の外来通院から退院後までの自分の経過がイメージしやすくなり、不安が最小限となる CP の作成を行う。

### II. 研究方法

#### 1. 方法

- 1) 医師、病棟看護師、薬剤師、栄養士の医療者間で月に 2 回、定期的に大腸グループのメンバーで CP についての会議を行い検討した。
- 2) 平成 19 年 7 月に実施した大腸癌切除術クリニカルパスに対する患者満足度調査から得られた結果を考察し、CP の改訂を行った。

#### 2. 期間

平成 19 年 9 月～平成 20 年 6 月

### III. 結果

医師、看護師、薬剤師、栄養士の認識を統一させるために定期的なカンファレンスを行い、医療者の目的と患者の要望から CP の検討を行った。

患者にとって入院生活の一日の流れが分かるようにするために、文字を大きくし、日めくり式のパンフレット型式にした。従来のオーバービュー型式の CP を、入院から退院までの治療・処置・検査・内服・食事・排泄・指導などの一連の流れが一目でわかるように、より簡潔なものにし、最後に追付した。手術前までのページは手術前の検査や必要物品などを記載した。手術後のページ

は患者にとって不安を抱きやすい全身状態をイメージしやすいものにするために、全体像が描かれたイラストを載せた。また、一日のタイムスケジュールがわかるように、手術後の巡視、検温、輸液交換、ドレーン抜去、心電図モニターの除去、酸素中止などを時系列にして記載した。そして、その日に行う検査内容や、離床の程度、食事内容についても記載した。

病棟薬剤師、管理栄養士が同じ媒体を活用しながら指導を実施できるようにするため、内服指導、栄養指導の内容を付け加えた日めくりCPとした。

最後のページには、退院後の生活の注意事項や外来通院、緊急時の対応についての内容を記載した。

さらに、外来診察の時点で手術が決定した患者に対して、医師、外来看護師が活用できるようにした。外来で医師がCPを患者に渡し、疾患、手術方法、術前検査などについて説明を行い、外来看護師は、CPに沿って入院までの流れや呼吸練習の説明を行えるようにした。

パンフレット一体型CPは、患者が入院前の外来から、入院中、手術経過、退院後の生活までの一連の流れが把握できるようにした。

#### IV. 考察

パンフレット一体型CPを作成するにあたり、患者が具体的にイメージできる言語や表現方法で患者に提供される必要があるということを念頭においた。日めくりのパンフレット型式にしたことで、箇条書きにし、文字の大きさを大きくすることができた。このことで、患者はCPが見やすくなり、興味や関心をもつことにつながると考えられる。医療者は、統一した媒体を使用することで、CPに沿ってわかりやすく一貫した情報提供、患者指導ができるようになったといえる。貝瀬氏は、「患者にとって、病気のもたらす身体的・心理的・社会的影響を、急性期・回復期・在宅期などの病気の経過にそって明らかにし、医療者の全体が患者の問題への共通意識を持って、患者・家族が直面する課題に対して達成可能な目標とケアプランを一連のものとして提供する必要があり」と述べている。パンフレット一体型CPによって、患者、家族、医療者が共通意識を持ち、コミュニケーションが円滑に取れるようになったと考える。さらに、患者は自分の入院生活や治療内容、回復過程が具体的にイメージやすくなり、漠然とした不安が軽減し納得したうえで治療を受けることができるようになったと考える。

新人看護師にとっては初めて接する患者であっても、どの時期にどんな治療やケアを受けるのかが分かりやすくなった。その他のスタッフにとっても、これまで経験として漠然と捉えていたものを明確な形で捉えることができるようになった。これは、患者が必要とするケアの状況を確認し、漏れなく提供することにつながり、患者に対して質の高いケアの提供につながると考える。

薬剤師・栄養士はこのCPを活用し、内服指導、栄養指導を行うことができるようになった。それぞれの専門的な内容がCPに組み込まれており、患者の経過を踏まえながら、状態に合わせた指導が可能となる。

入院期間の短縮に伴い、患者の不安が少しでも軽減し、納得した上で入院、検査、治療を受けることが必要である。菅野氏は、「患者用クリニカルパスは単に患者が受ける医療と予測される過程の説明に用いるだけでなく、患者教育用のツールとしても有用である」と述べている。外来の時点からCPを活用できるようにすることで、外来で呼吸練習や禁煙についての指導を行うことができるようになり、術後合併症の予防に向けてより早期に取り組めるようになる。

病棟看護師は患者と毎日CPをみながら退院に向けて目標を共有させて治療を進めていくことができるようになる。このことから、医療者は患者に対して、説明や指導を行う際に、内容が理解しやすいように関わる必要があり、そうすることで、患者は意志決定のために情報をより多く持つようになる。そして、自分なりの計画を立てることも容易になり、治療意欲が高まることにつながると考えられる。

しかし、CPに示している経過通りにたどらない患者もいる。患者は時にこのCPによって自分は順調ではないと不安を抱えることもあると考えられる。貝瀬氏は「クリニカルパスは、条件を特定した患者集団の標準経過に基づいて設定された治療・ケアの仮説である。患者一人一人は多くの異なった条件を抱えているため、個人に適応する場合は標準との差異を明らかにし、計画を評価・修正しなければならない」と述べている。このことから、パスから異なった経過に至った患者に対してはカンファレンスなどでチームで情報を共有し、患者の感じる不安に迅速に対応するなど、個別性に合った治療やケアを提供していく必要があると考える。

今後も、医療者間での定期的なカンファレンスを継続し、他職種との意見交換を行うことで、統一した認識を共有していく必要があると考える。そして、患者の満足

度調査を実施し、さらにCPの改訂を行っていくことが課題である。

医療者用CPについては、より患者のニーズに沿ったCPにするために、パスどおりのケアが行われていない、ケアの逸脱、期待する結果とのずれを表すバリエーションの分析が必要となってくる。CPの標準化を明確にすることで、患者の個別性が見えてくる。アウトカム評価、バリエーション分析を定期的実施し、医療者用CPの改訂も行っていくことが課題である。

## V. 結論

従来のCPの検討を行ったことから、患者の不安を最小限にし、ニーズに沿うことを目的としたパンフレット一体型CPを作成した。

## 引用文献

- 1) 田中久仁子:クリティカルパス徹底活用術 学研 nursing10 増刊号 p46 2005 vol.125 No12
- 2) 小林寛伊 他:標準ケア指針 クリニカルパスとケア計画② 照林社 p13 2001
- 3) 笠鹿美帆子 他:チームで取り組むクリニカルパス ナーシングトゥデイ⑮ 日本看護協会出版 p48 2000
- 4) 小林寛伊 他:標準ケア指針 クリニカルパスとケア計画② 照林社 p19 2001

## 参考文献

- 1) 高木実里子 他:大腸癌切除術のクリニカルパスに対する患者満足度調査と看護師の意識調査, 第39回金沢大学附属病院看護研究発表論文集, p57-60, 2007
- 2) 長谷川良人:チーム医療でとらむクリニカルパス 福井県済生会病院 2002
- 3) 小西敏郎 他:外科クリニカルパスの実際 導入から評価まで 金原出版株式会社 2002
- 4) 副島秀久 他:変化の時代に対応する クリニカルパス 照林社 2007